

本件は東京都と同時発表です

平成18年5月29日

日本環境安全事業株式会社

管理部長 三好 信俊 (03-5765-1906)

事業部長 木村 祐二 (03-5765-1907)

安全・技術開発課長

田中 紀彦 (03-5765-0543)

## 東京 PCB 廃棄物処理施設からの微量の PCB を含む排気の排出 と安全対策の実施について

現在、当社の東京 PCB 廃棄物処理施設（江東区青海 2 丁目地先）は操業を停止し、点検中の状態（操業停止に際して残置した処理前の PCB が存在します。）にあります。5 月 25 日午後 9 時頃から、東京処理施設のコンデンサ解体室の排気口の一部で、排気の PCB 濃度の異常値が検出されました。

このため、コンデンサ解体室内の予備洗浄ユニット及びグローブボックスの排気口を閉じるなど漏洩防止のための応急処置をして原因の究明に取り組むとともに、排気口の排気や敷地境界の大気の PCB 濃度測定を実施しました。

その結果、施設の排気口から排出された PCB は微量で、敷地境界の大気から PCB は検出されませんでした。

東京処理施設において PCB の排出を再び起こしたことを厳粛に受け止め、東京処理施設はもちろん、他の処理施設も含め、当社の PCB 廃棄物処理施設における環境・安全の確保に全力で取り組んでまいります。

多大なるご心配、ご迷惑をおかけしておりますことを心からお詫び申し上げます。

### 1. 測定結果と周辺環境への影響

微量の PCB を含む排気が施設から排出されたことは確認されましたが、敷地境界の大気から PCB は検出されず、周辺環境への特段の影響はないものと思われま

・排気：0.2mg/Nm<sup>3</sup>（コンデンサ解体室からの局所排気）

（東京都、江東区及び当社による協定の PCB 濃度の自主管理目標値は 0.01mg/Nm<sup>3</sup>。なお、排気の PCB 濃度については、法基準値は定められていない。）

・敷地境界の大気：0.0005 mg/Nm<sup>3</sup>未満（東西南北 4 箇所全て）

### 2. 原因

東京処理施設においては 3 月 28 日に微量の PCB を含む廃水の流出事故を発生させ、現在稼働を停止していますが、コンデンサ解体室・グローブボックス内の液中切断槽に残留する PCB が気化し排気口から漏洩したと思われ、詳細な原因は調査中です。

### 3. 安全対策

#### (1) 緊急に講じた措置

原因究明と並行して以下の緊急対応を行いました。

- ・コンデンサ解体室の排気口における排出ガスの採取・分析
- ・敷地境界における大気の採取・分析
- ・コンデンサ解体室（予備洗浄ユニット及びグローブボックス）からの排気の停止
- ・操業停止後も作動を維持している設備・装置等の安全確認

#### (2) 今後の対応

全社事故対策本部（26日午後7時に設置。本部長：代表取締役社長 宮坂真也）において詳細な原因究明を行うとともに、施設内設備の再点検を行った上で、現在実施中の「東京事業改善計画書」に基づく改善対策を今回の漏洩事故に照らして再検討し、抜本的な安全対策を講じるなど、東京都及び江東区のご指導を得ながら再発防止に向けて全社をあげて取り組みます。